③個人追究:作図で活用した長方形の定義，性質を説明する。

②学習課題:三角定規を用いて，垂直や平行な直線のかき方を活用して，長方形をかこう。

②見通し:分度器がないから直角を測ってかくことができない。

→垂直な直線のかき方を利用すれば，直角ができる。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・垂直や平行な直線を，三角定規を用いてかくことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・長方形の定義，性質を活用して作図をすればよいことを理解している。

≪学習問題≫

たて4ｃｍ，横6ｃｍの

長方形をかきましょう。

教材研究ノート№4-B-2

Ａ

Ｂ

Ｃ

Ｄ

4cm

6cm

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのかき方にも共通していることは何だろう？」

→「三角定規を使って垂直や平行な直線のかき方を使っている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「直角を使っていない角も本当に直角になっているだろうか？」

→「垂直な直線のそれぞれの平行線も，互いに垂直になる。」

「1つの角が直角だと分かれば，あとの3つは平行線をかけば直角を測らなくても直角になる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・長方形のいえることを使えば，長方形がかける。

・垂直や平行な直線のかき方を使えば，直角の角度を測らなくても長方形をかくことができる。

⑥定着･活用問題

ひろし君は長方形のかき方を考えています。

「直角を一つだけ測れば、あとは平行線のか

き方を利用すればよい」と考えました。

ひろし君のかき方を説明しましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・共同追究前半では，見通しとして立てた方法に戻るようになるため，「本当にそれでよいのか」ということを問い返し，垂直と平行の意味，長方形の定義から説明させたい。このことが，それぞれの意味理解を深めることになる。

・このように考えたときの定着問題は，上にあるように，方法を説明することを考えたい。